

協同制作による国際交流学習のための 単元モデルの開発

稲垣 忠 東北学院大学教養学部
清水 和久 石川県教育センター
塩飽 隆子 ジャパンアートマイル



概要

- 目的:** 国際交流プロジェクトにおける協同制作に着目した単元モデルの開発
- 方法:** 参加教師に学習目標、実施教科、時間数、活動の流れ等を含む「評価シート」への記入を依頼。その結果を分析。
- 結果:** 標準的な単元モデルと共通の学習目標を抽出することができた。



背景

- 国際交流学習の授業設計支援
 - Harris(1999) 6種類の交流モデル
 - Riel (1995) “Learning Circles” 課題を共有するプロジェクト学習
 - Kageto (2006) コミュニケーション能力育成の単元モデル
 - Inagaki (2005) 学校間交流学習の授業設計モデル
 - 協同制作に特化した設計支援はまとめられていない。
- 協同制作による交流学习
 - 高いレベルの**コラボレーション**(日程・テーマ・役割調整)が必要。
 - Webサイト(バーチャルクラスルーム)、本(おこめ)、劇(歌舞伎)



アートマイルプロジェクトとは？

- 壁画による国際平和メッセージを発信するプロジェクト
- ジャパンアートマイル(JAM):国際交流学習に注力
- JAMの目標
 - 相互理解と文化の多様性
 - 自律的・主体的に学ぶ態度



ユネスコ「世界の子どもたちのための非暴力と平和の文化10年」



JAM 壁画の制作活動

- 単独校で制作
 - 11校
- 国内交流による制作
 - 2校
- 国際交流による制作
 - 14校



2010を目標に...

世界中のアートマイル壁画
をエジプトに集め、ピラ
ミッドを囲む展示会を開
催します！



研究の目的

- 国際交流における協同制作を中心としたモデルプランの開発
- モデルに含まれるべき要素
 - 適切な交流の時期
 - 標準的な時間数
 - 関連する科目
 - 活動の流れ
 - 期待される学習成果

研究の方法

- JAM参加教師に評価シートへの記入を依頼。
 - 基本情報→関連づけた科目、時間数
 - 活動の流れ→活動内容と教科の対応、児童の反応
 - 学習のねらいと評価→共通の学習目標と達成具合
 - JAMに取り組んでの成果と課題
- 28学級が参加。14 の評価シートを収集した。

評価シートの形式

アートマイル 交流プロジェクト 評価シート

●基本情報について教えてください。

実施年度	実施月	実施日	実施時間	実施場所
実施教科	実施科目	実施単元	実施単元	実施単元
実施学年	実施学級	実施人数	実施人数	実施人数
実施学校	実施学校	実施学校	実施学校	実施学校

●実施活動について教えてください。

実施活動	実施活動	実施活動
実施活動	実施活動	実施活動
実施活動	実施活動	実施活動

●実施した学習活動の振り返りについて教えてください。(授業開始前に行われた活動も記入して下さい)

実施活動	実施活動	実施活動
実施活動	実施活動	実施活動
実施活動	実施活動	実施活動
実施活動	実施活動	実施活動
実施活動	実施活動	実施活動
実施活動	実施活動	実施活動
実施活動	実施活動	実施活動
実施活動	実施活動	実施活動
実施活動	実施活動	実施活動
実施活動	実施活動	実施活動

●実施した学習活動の振り返りについて教えてください。(授業開始前に行われた活動も記入して下さい)

実施活動	実施活動	実施活動
実施活動	実施活動	実施活動
実施活動	実施活動	実施活動
実施活動	実施活動	実施活動
実施活動	実施活動	実施活動
実施活動	実施活動	実施活動
実施活動	実施活動	実施活動
実施活動	実施活動	実施活動
実施活動	実施活動	実施活動
実施活動	実施活動	実施活動

●実施した学習活動の振り返りについて教えてください。(授業開始前に行われた活動も記入して下さい)

実施活動	実施活動	実施活動
実施活動	実施活動	実施活動
実施活動	実施活動	実施活動
実施活動	実施活動	実施活動
実施活動	実施活動	実施活動
実施活動	実施活動	実施活動
実施活動	実施活動	実施活動
実施活動	実施活動	実施活動
実施活動	実施活動	実施活動
実施活動	実施活動	実施活動

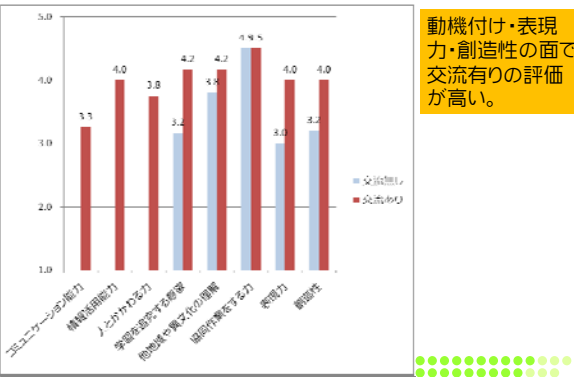
結果(1) 科目と実施期間

- 10 時間～86時間
 - 27.0 時間(交流無し)
 - 30.8 時間(交流有り)
- 実施の4類型
 - 総合的な学習の時間中心(IS)→4事例
 - 総合と教科のクロス(CS)→4事例
 - 美術・図画工作中心(AT)→2事例
 - 課外活動(OC)→2事例

No.	実施科目	実施時間	実施回数	実施回数	実施回数	実施回数	実施回数	実施回数	実施回数	実施回数	
1	IS	80	4							2	86
2	IS	50	10	18	2	2	3				85
3	IS	30									30
4	IS	15									15
5	CS	12	9								21
6	CS	10	2								18
7	CS	6	4								10
8	CS	6	6	2				6			20
9	AT	10									10
10	AT	8									12
11	OC	10									10
12	OC	10									10
13	OC	10									10
14	OC	10									10
合計		209	46	31	4	2	3	6	34	2	10

交流込みであれば30時間程度。総合を軸に教科をクロスさせる

結果(2) 学習目標と達成度合い



結果(3) 成果と課題から

- 共同制作: 春竹小と本荘小との共同制作をしたことで、子どもたち同士の交流が深まり、協力して立派な作品を仕上げることができた。
- 自文化の発見: ふるさと佐賀だけでなく、日本・世界にある大切なものを残していきたいという思いを強く感じることができた。一つのこと全員で取り組むことで子どもたち一人一人の結びつきをより深めることができた。
- 国際理解・協力: 相手を意識して活動でき、アジアの未来について、キーワードを出し合い、共通理解できた。同じアジアの友達の願いを知り、平和について考えることができた。言語以外に絵で気持ちが通じ合うことが実感できた。
- 表現の広がり: インターネットが単なる情報収集だけでなく、自分の自己実現のための道具であることを生徒自ら気づいた。難民キャンプの過去と現状を知って、相手の顔を身近に感じる交流を行い、自分で考えるきっかけを持てたことは、学習に受身がちな生徒にとって大きな変化。
- 他者との出会い: 生徒自ら主体的な学びをすすめることが可能に。海外との共同制作や作品の海外展示を通して他者と出会い、インターネットを活用して、海外の生徒とリアルタイムで話をするのは、生徒自ら「学びたい・知りたい・伝えたい」意欲をかきたて、主体的な学びへと変えさせる効果がある。

交流学习の学習効果

- コラボレーション** 異文化・自地域の理解 協同作業をするスキル
- コミュニティ** 学習を追究する意欲 人とかかわる力
- コミュニケーション** コミュニケーション力 情報活用能力

共同制作による学習効果の重点

結果(4) 成果と課題から

- 時間**: 下書きで時間がかかった。民話学習を展開した後の製作だったので学習が遅れると、製作に影響する。計画をしっかりと立てる。
- 表現技法**: 小中一貫なので、中学部の美術担当の教師にもアドバイスや指導を受ければ、発想・構想や表現の面でより多くの成果を上げられたであろう。
- 情報不足**: 学生は「アジア平和」のテーマについて、あまり理解できなかったため、アジアの戦争のことを説明するために非常に時間がかかりました。どんなものが「平和」の象徴、イメージかを教えるのに時間がかかりました。
- カリキュラム**: 導入に時間をかけられれば、アートマイルをきっかけに他の様々なことを知ったり、考えたりできたのでは。国際理解の授業は、「体験」や「イベント」で終わってはならない。まずは「知ること」。
- 相手校との調整**: 二校の連携が必要で、より綿密な計画が必要であった。下絵の転写は休み時間等を利用してできた。
- テレビ会議**: TV会議チーム、テレビバアチーム・食文化チームと142名が分かれて活動し、相手は優秀班の少数の児童であり、直接交流はTV会議チームの特色と限定した。
- 作品展示**: 子どもたちが描いたアートマイル作品を、保護者の方には参観日を利用して見ていただいたが、地域の方々にはご覧いただけなかったこと。

アートマイルの単元モデル

- **対象**
 - 小学校高学年・総合的な学習の時間を軸に
 - 5月～3月まで48時間。交流の開始は9月から
- **設計指針**
 - コミュニケーション
 - ・ テレビ会議と掲示板の利用
 - ・ 国語と英語との関連性
 - コミュニティ
 - ・ 親善大使(ぬいぐるみ)の交換
 - ・ 年賀＆クリスマスカード交換
 - コラボレーション
 - ・ お互いの地域の情報を集める
 - ・ テーマ、計画、役割を話し合う
 - ・ ラフスケッチを描く
 - ・ 半分描いて相手に送り、受け取った側は完成させる
 - ・ 成果を鑑賞し、振り返る

まとめと今後の課題

- **まとめ**
 - ・ **目的**: アートマイル国際交流プロジェクトにおける協同制作に着目した単元モデルの開発
 - ・ **方法**: 参加教師に記入を依頼した「評価シート」を分析
 - ・ **結果**: 標準的な単元モデルと共通の学習目標を抽出

手順: 時期調整 → 制作プロセス → 情報収集 → 関係づくり

- **今後の課題**
 - モデルの有効性の検証: 教員向けワークショップ
 - 他の学年・校種に適用
 - 他の協同制作プロジェクトとの比較検討

手順モデルとの関連

準備段階	1. 交流相手を見つける
	2. 交流の素材・テーマを考える
	3. 交流手段を選び環境を整える
	4. 交流活動を具体化し計画を立てる
	5. ねらいを位置づけ明確にする
実践段階	6. 相手校と出会い、仲間意識を形成する
	7. 学習者のコミュニケーションを点検する
	8. グループと役割分担を工夫する
	9. 関わり合いを生かして追究の質を高める
	10. ふり返りと展開を見通す場面を設ける
前提条件	0. 教師間の連携と周囲への説明をはかる

教師向けワークショップの実施

- **単元モデルをもとに「学習カード」用意し、それを並べ替えることで各校の学年暦にあったプランをつくる**
 - 活動カード、コミュニケーションカード、描画カード